

第 19 回縮小社会研究会東京大会 プログラム

町歩き

10:00～ 案内人 山崎範子（谷根千工房）
谷中墓地（千人塚・五重塔跡）→三崎坂→防災広場→阿部建築の
路地→須藤公園→（11:15）旧安田楠雄邸（11:45）→鷗外記念館
を抜けて屋敷森→根津神社 昼食いったん解散

講演会

14:00 開会
根津教会 鍋谷牧師のお話
14:10 講演 1 縮小社会研究会が目指すもの 松久寛
14:50 講演 2 「すみれ派宣言」森まゆみ

休憩 16:00～16:15

パネルディスカッション

16:15

パネリスト

谷根千工房・作家 森まゆみ

根津映画倶楽部 しまけいいち

縮小社会研究会理事長 松久寛

司会 佐藤国仁（縮小社会研究会理事）

17:00 終了

懇親会

根津車屋（19時終了予定）

日時：2013年11月2日

講演会会場：日本基督教団根津教会

主催：一般社団法人縮小社会研究会

〒606-8227 京都市左京区田中里ノ前 21 石川ビル 305

e-mail: jimukyoku@shukusho.org HP: <http://shukusho.org/>

縮小社会が目指すもの

松久 寛 (縮小社会研究会理事長)

いつまでも経済成長を続けることが不可能なのは、多くの人が認識している。しかし、遠い先のこととして目をつぶっている。地球温暖化、エネルギーの枯渇など遠い先のことが、目の前に迫ってきているが、なんとかなるだろう、私の生きているうちは大丈夫だろうと考えないことにしている。日本では、経済成長はすでに止まっている。国税庁の民間給与実態統計調査によると、サラリーマンの平均年収は1997年の467万円から2011年には409万円と58万円減少した。正社員が減り非正規社員が増えている。人口も減少し始めた。すでに、縮小に入っているのである。大量生産、大量消費という経済システムが、物があふれて機能しなくなったのである。にもかかわらず、経済成長を追い求めると、赤字国債という借金を増やすだけである。これは、放射性廃棄物と同様に次の世代へ付けを回すことになる。

毎年何%という経済成長を続けると、資源の残存可採年数は瞬間に短くなる。100年は持たない。残存可採年数を持続するには、例えば100年分の資源があれば、毎年1%ずつ使用を減らせばよい。発展途上国の成長に配慮し、先進国では2%ずつ減らせばよい。縮小の単純明快な目標である。それによって、将来の人の生存が保障され、かつ現在の人々が幸せになる道を探すのが縮小社会研究会である。縮小というと、江戸時代に戻るのかと言われる。そんなことは不可能だし、その必要はない。毎年2%の縮小なら、30年後のGDPは現在の54%になる。これは、1980年代初期の数値である。技術の進歩や人口の縮小を考えると、そのころよりもずっと豊かな暮らしができる。

いま、日本人は毎日、石油換算で10リッター(L)のエネルギーを消費している。これは、カロリーでは10万kcalである。人間の必要カロリーが2000kcalであるので50倍になる。これの2%は、2000kcalまたは石油0.2Lである。一人あたり、日々

これだけ節約すれば、2%の縮小になる。たとえば、太陽火熱温水器なら4000kcal/day、太陽光発電なら8000kcal/day、3kgの木材を燃やせば石油1L、乗用車は10kmで石油1Lである。なお、これらは、製造にかかるコストを考慮していない。たとえば、乗用車の製造には石油1400Lが必要であるが、使用期間を10年ではなく、20年にすると、1日あたり0.2Lの節約になる。住宅も同様で、使用期間の50年と100年の差は毎日0.1Lの節約になる。これ以外に、電気製品の省エネも進んでいる。この10年で冷蔵庫やテレビは50%以上の省エネを実現している。しかし、買い替えるのと長持ちさせるのは相反することで、その見極めが大事である。さらに効果的なのが、使用量の縮小である。現に、この2年間で電力使用量は10%減少した。これによって、とくに不便になったわけではない。朝顔やゴーヤの日除けを楽しみ、歩くことによる健康増進を喜びとすればよい。

縮小は難しいことではない。縮小で幸せな社会を実現することができる。これには、まず、意識を変えることである。使い捨て、オール電化、大量生産・大量消費、24時間営業、・・・、これらは文明の象徴とされていた。しかし、それらは、人間の使い捨て、単純作業、深夜労働などとコインの裏表である。2012年のOECDの「より良い暮らし指標(幸福度指数)」では、日本は36カ国中21位である。これは、住宅、収入、雇用、共同体、教育、環境、ガバナンス、医療、生活満足度、安全、仕事と生活の両立、を評価指標としている。幸福度を上げるには、人間らしい労働を取り戻し、ワークシェアや社会保障の充実で分配の不平等を解消する必要がある。これは、決して難しいものではなく、ヨーロッパの福祉国家では実行されている。金と物だけでは幸せは得られない。

今まさに、破滅に至る経済成長の道か、縮小社会への道かの岐路にいる。私達だけの幸せから、子どもや孫の幸せまで視野を広げる必要がある。滋賀県の嘉田知事はもったいないというキャッチフレーズで当選した。私達の心の奥には、もったいない、丈夫で長持ち、知足などの言葉がある。

すみれ派宣言—縮小社会を目指して

森まゆみ



森まゆみプロフィール

1954年東京都文京区動坂に生まれる。
早稲田大学政経学部卒業、東京大学新聞研究所修了。出版社で企画、編集の仕事にたずさわった後、フリーに。地域雑誌『谷中・根津・千駄木』の編集人を経て、文筆活動

近刊 青鞥の冒険(平凡社)

千駄木の漱石(筑摩書房)等

谷根千工房<http://www.vanesen.net/>

明治・大正の生活

漱石の句 「すみれのような小さき人に生まれたし」

漱石の言葉 「懐手をして小さく世を渡りたい」

漱石が山県有朋に招待された時の句

「ほととぎす厠なかばに出かねたり」

漱石や鷗外のころ 本郷通りには自動車はなく、明治36年に市電が通った。

俵といえは人力車、あとはおおい屋街道で人肥を運ぶ大八車など。行灯のもとで一葉は書き、ランプのもとで鷗外や漱石は読んだり書いたりした。

家に風呂はあったが、たいていは銭湯に通った。明治の家は寒くて、火鉢しかなかった。

私達の生活がこんなことになったのは、どこからか？ 戦後史と自分史の再検討

年	社会	このとき私は。
1940	フーバーダム	
1945	敗戦。日本の原子力研究禁止	
1949	朝鮮戦争	
1950	法隆寺焼ける。文化財保護法	
1952	サンフランシスコ条約、以降核の「平和利用」へ	
1954	ゴジラ誕生、ビキニ水爆実験、第五福竜丸事件	生まれる
1955	原子力基本法。経済白書、「もはや戦後ではない」との経済白書	
1957	神武景気 三種の神器、テレビ・洗濯機・冷蔵庫	
1960	池田勇人首相 所得倍増計画	
1961	農業基本法	
1962	全国総合開発計画による国土最開発	
1963	部分核停	
1964	東京オリンピック、カラーテレビ、高速道路、新幹線開業。ベ平連	私、オリンピックに高揚
1967	公害対策基本法	
1968	学生運動激しくなる。文化庁できる。	
1969	安田講堂事件。アポロ11号月面着陸	このとき中学3年生
1970	しらけ世代。無気力、無関心、無責任、無感動	大阪万博に疑問
1971	環境庁できる	
1972	赤軍派、よど号ハイジャック事件。ローマクラブ「成長の限界」宇宙船地球号の危機。	
1973	石油ショック変動相場制、金大中事件	大学に入った年
1976	ロッキード事件、田中角栄、丸紅や日商岩井から収賄。天安門事件	
1977		卒業すれども女子大生に就職なし。PR会社に潜り込む。出版社に転職
1979	第二次石油ショック	結婚、出産を期に食べ物の問題に目覚め
1984	日本のODA最大	地域雑誌谷根千創刊
1985	プラザ合意 電電公社、専売公社、国鉄民営化	
1986	地価あがり始め、底地買い、バブル前兆。チェルノブイリ原発事故	原発問題・子どもの手を引いてデモに参加
1987	ブラックマンデー	
1989	昭和天皇の死、ベルリンの壁崩壊、消費税3%導入	
1991	ソ連崩壊	
1995	阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件	
1997	山一証券、北海道拓殖銀行など破綻	
2000	介護保険制度できる	
2001	中央省庁の再編、ニューヨークで9・11のテロ	
2003	中国などでサーズ流行、イラク戦争	
2005	個人情報保護法、施行、郵政民営化法可決	
2006	ライブドア、村上ファンド、銀行合併	
2008	消えた年金、グリーンピア、官僚による国民資産の食いつぶし。	私、自己免疫疾患原田病にかかる
2009～	格差社会、ヒルズ族とワーキングプア。引きこもり、ニート、名ばかり管理職、ネットカフェ難民・・・問題が個人に抱え込まれる	2009地域雑誌谷根千終刊
2011	3・11東日本大震災・福一事故	
2012	99%のウォール街デモ、マドリッド、トルコのタクシム広場の占拠、自民党の憲法改正法案、消費税の値上げ決定	

地域雑誌 谷根千 の やって来たこと (1984-2009)

地域の歴史を掘り起こし、「記憶を記録に替える」

- * 聞き書きという方法を考え出し、「小所低所に徹し、ふつうの人々の生き死にを記録する」
- * 地域に「水平の双方向のコミュニケーション」を作り出し、町におこるいろんな問題をみんなで話し合う場を作る。非常時のための平時の活動
- * 環境サミットのころは「もったいない」「直して使う」生活の提案、狂牛病のときはお肉屋さん支援、9・11のときは町に暮らすイスラム系の人々とのコミュニケーション作りなど 相互扶助「おたがいさま」ですむ人を守る。「あたたかくて風通しの良い町づくり」
- * 上野奏楽堂、赤煉瓦の東京駅、不忍池地下駐車場反対と自然保護などのたくさんの運動の事務局となる。「いらぬものは作らせぬ。大切なものは守る」
- * 谷中菊まつり、円朝祭りなどの創設、芸工展、一箱古本市、そのほかのイベントに協力協働。
- * 千駄木の杜の管理、千駄木安田邸の運営管理（文京たてもの応援団との協働）
- * 各種文化イベントの主宰、現在は文京区所蔵のフィルムを見る会、森まゆみ学級。—谷根千記憶の蔵の運営。
- * 記録の映像化、集めたメモ、テープ、写真、資料など文化資源のアーカイブ化
- * 3・11以降、津波被災地やいわきの支援のお手伝い
- * 地震で壊される地域の建物の救出（根津山の湯、富士見坂の景観、ノコギリ屋根）、谷中防災コミュニティセンターの立て替えへの参画
- * 「小さなメディアの必要」「コミュニティ出版社」の経営。
- * 「子育ての社会化」順繰りまわし、お下がり、どこでもドア、貧楽仲間
- * スローライフ—「こたつみかん暮らし」

私達はどこまで戻らなければならないか？——原発はこりごり

谷根千でやって来たこと

…ハイテク巨大都市東京が
投げ捨てたもう一つの価値を守る

蛙やトンボに会える町

風と木と匂いのある町

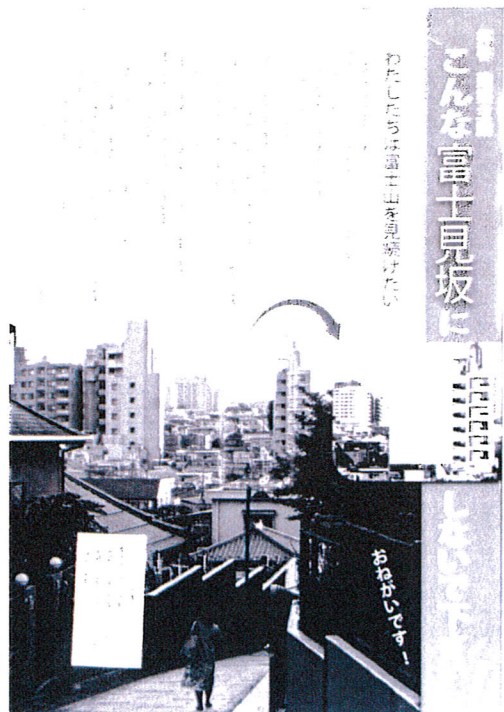
富士山がみえる町

路地でけんかが出来る町

子どもが迷子になれる町

お金がなくてもすすめる町

時間がゆっくり過ぎる町



「抱きしめる、東京」(1993)で 私が書いたこと

… 後ろ向きに前進する

- ・ 駐車場を作るより車を持たないこと
…不忍池地下駐車場、大気汚染調査
- ・ 地下はこれ以上掘らず、地下水や井戸を大切にすること
…井戸水の調査
- ・ 海は埋め立てず、海として放っておくこと
…青海の埋め立て反対
- ・ 遠くの山村の自然を壊してダムを造るのではなく、雨を土に戻し、その水を飲むこと
…雨水利用、八ッ場ダム反対
- ・ 都市型洪水を防ぐには、雨を下水に流さず、各戸でためるか、土に戻すこと／道は透水性舗装にし、学校の校庭は土に戻すこと／夏はクーラーをつけず窓を開けること
…朝顔、ゴーヤ、打ち水、団扇の生活
- ・ ゴミ焼却場を増設する余地、包装を省き、ゴミを徹底して減らすこと
- ・ 都電のような地上の景色のみえる、停留所の距離の短い、乗りやすい乗り物を復活すること
- ・ 歩道橋は廃止して、横断歩道を確保し直すこと
- ・ 都心を車にとって不便な町にすること。便利より不便を楽しむこと
- ・ 鳴り物入りの公共施設を一つ作るより、地域に歩いていける小さな施設を分散すること
- ・ 建物も新しく建てるより直して使うこと
…ゴミをださず資源を使わない



20年経ってもいささかも修整する必要はないと思う。付け加えれば

- ・ 原発や化石燃料より小規模再生可能エネルギーで地域の自立を目指す
- ・ アイヌの笹小屋のような地熱利用の断熱建築を見直す
- ・ 断熱改修により地域の工務店に仕事の落ちる地域循環型経済を
- ・ いじめのない、通うのが楽しい学校を地域に
- ・ 施設介護か家庭介護かの二者択一でない地域介護ができないか
- ・ コーポラティブ、住み開き（谷中の家）、保存活用（安田邸、間間間、カヤバ、田中邸）マッチング、シェアハウス（市田邸）、
コワーキング（記憶の蔵、萩荘） 共住のさまざまな試み

資料 1

一般社団法人 縮小社会研究会 設立趣意書

成長路線はすでに行き詰まっている。化石燃料の枯渇、環境の悪化は警告されて久しいが、その対策は将来の科学技術の進歩に期待するとして、経済成長路線を走ってきた。毎年何パーセントという指数関数的成長を続けるには、資源も土地も毎年何パーセントずつ増えねばならない。たとえ2%の成長でも、100年後には7.2倍、200年後には52倍になる。それは不可能であり、破滅に至る。しかし、その前に世界は弱肉強食の資源争奪戦争に陥る。すでに石油をめぐる戦争は始まっている。そこで、脱成長や持続可能性が議論されるようになってきた。「持続」と言っても、今の経済成長率の持続、今の生活の持続、環境や資源の持続など、何を持続するかによって方向性は異なる。要は、こどもたちが将来困らないように資源や環境を持続させることである。

そのためには、資源の使用量を縮小するしかない。たとえば、現在100年分の化石燃料があるとすると、毎年1%ずつ使用量を減らしていけば、永遠にあと100年分の資源が残っている。それ以上に使用量を減らせば、資源の残存年数は増加していく。これが、資源争奪戦争を回避する有力な方法である。環境に関しては、地下に眠る化石燃料を使用する限り空気中の二酸化炭素は増加し続ける。化石燃料使用の縮小で二酸化炭素の増加を軽減することはできる。もちろん、新たな資源や技術が見つければ、そこで縮小プランを修正すればよい。しかし、見つかるだろうと想定して成長を続けることは、破滅への道に他ならない。

現代社会における経済様式は、成長とグローバルな競争を前提とした大量生産・大量消費である。その結果、我々の生活はものにあふれ、ものに依存し、ものに振り回されている。成長路線はすでに幸福より社会の歪み拡大を招いている。一方、縮小社会は、地産地消で省エネルギー、エコロジカルかつ丈夫で長持ちのものを生産する社会である。我々はものの呪縛から解放され、各々が創意工夫して生活を作ることになる。福島原発事故後に電力使用量は1割削減されたが、これは縮小社会への道が不可能ではないことを示唆している。幸福はものの豊富さだけではなく、他者との共生や創造的な仕事から得られる。さらに、縮小することにより次の世代への責任を果たすことになる。

以上のように、従来の成長路線はすでに行き詰まっているが、この先の破局を回避するには、現代社会の物質的規模を縮小することが必要である。そこには、資源、技術、環境、食糧、人口、国際的・国内的な格差、経済不況、国際紛争など多くの問題が横たわっている。各分野の人たちが知恵を出しあって、これらの問題の解決法を見出していくために本研究会を設立する。

2013年1月22日

代表理事 松久 寛

新聞にもこのように
採り上げていただき
ました

東京新聞
2013-10-30

読売新聞 2013-10-22

言 壺 森 斤

都内の下町をテーマにした
地域雑誌「谷中・根津・千駄
木」(谷根千)の編集人・作
家の森まゆみさんが11月2
日、文京区根津の日本基督教
団根津教会で、「小さな雑誌
で町づくり 谷根千の経験」
と題する講演を行う。

下町の楽しさ 谷根千の経験

読売 2013.10.22 朝

かけて94冊が発行された。森
さんは講演会で、雑誌編集の
仕事ぶりや楽しさを説明し、
お金をかけなくても地域を盛
り上げられることなどを話す
という。

講演は、一般社団法人「縮
小社会研究会」(京都市)が
開催する定例会の一環で、講
演のほかにも、森さんと交え
る。

参加費は1000円。申し
込みは同法人のホームページ
(<http://shukusho.org/>)
から。

来月2日、編集人・森まゆみさん講演

の申込み
0-026-993
券金お問い合わせ
010-2556
のご用命
010-2489

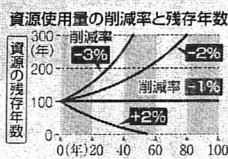
素晴らしい眺望と華やかな雰囲気。
二重橋前で楽しいパーティーを。

皇居二重橋前
東京會館

F100-0065 〒100-0003 東京都千代田区千代田1-1-1 03(3215)2111 <http://www.kakanca.jp>

したまち

大都市での暮らし 縮小考える機会に



松久寛さん

未来にツケ 残さぬため

松久寛さんの話 化石
燃料が百年分あったとし
て、年1%ずつ使用量を
減らしていけば、計算
上、五十年後には使用量
が90%に減り、永遠に百
年分が残る。1%以上減
らしていけば残存資源の
使用可能な期間は伸び、
資源争奪戦争を回避でき
る。人口が縮小していく
のに、未来にツケを残し
ていいのか。倫理の問題
だ。

もはや「持続可能」でなく「縮小社
会」を目指す時期一。京都を中心に活動
する一般社団法人「縮小社会研究会」
(京都市左京区)が11月2日、文京区の
根津教会で研究会の東京大会を開く。作
家の森まゆみさんが講演する。(原尚子)

「谷根千」に注目

研究会は二〇〇八
年、会長を務める松久
寛・京都大名誉教授
(振動工学)を中心
に、工学・経済学・農
学の研究者約三十人で
発足。物質的成長の限
界と生活の縮小を訴
え、毎月研究会を開催
し討論を重ねてきた。
一一年三月の東日本大
震災以降、一般の社会
人や主婦らの参加も増
えているという。

松久さんは「人口が
集中する大都市で、ど
う暮らして縮小するか
を考える機会に」と東
京開催の意義を語る。

文京区根津・千駄木と
台東区谷中の地域雑誌
「谷根千」(一九八四
一二〇九年)で、町
の身近な営みを見つめ
てきた森さんに講演を
依頼した。

「工学の議論は常に
拡大が前提で、年5%
ishio.org/#tag

根津で2日 作家・森さんが講演会

の成長でも百年で百三
十倍になる。だがもう
成長の余地はなく、こ
のままでは破滅に向か
う」と松久さん。

「谷根千」のよう
に、既存のものを大事
にするという方向性が
大切」と語る。

当日は午後二時か
ら、松久さん、森さん
が講演し、その後パネ
ル討論会。午前中に谷
根千の街歩き企画もあ
る。申し込みは、縮小
社会研究会のホームペ
ージ